

渡良瀬川だより

No. 156

平成27年1月4日

国土交通省

渡良瀬川河川事務所

地域広報官

地域の安全・安心のために

渡良瀬川河川事務所長

牛 腸 宏



(織姫山より渡良瀬川を望む)

平成28年の新年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年の世相を表す漢字に「安」が選ばれました。自然の脅威を思い知らされる現象が多数起こり、安全が脅かされたことが選定のひとつの要因になったようです。

ある地域が大きな災害を経験することは、そう頻繁にはありません。しばらく平穏が続くと「ここは災害のない安心な地域だ」と思うことは当然のことかもしれません。「天災は忘れた頃にやってくる」災害は自分たちの身近でおきなければ実感がわかないものではないでしょうか。

しかしながら、昨年の関東・東北豪雨による鬼怒川堤防の決壊は、ここ渡良瀬川の沿川の皆さんをも震撼させた大災害だったと思います。鬼怒川と渡良瀬川の流域は隣同士です。線状降水帯があと少し西側にずれていたら渡良瀬川でも大出水となって、大きな被害が発生したのではないかと・・・あの時、テレビの中継画面を見ながら危機感と安堵が重なる何とも複雑な気持ちになったことを思い出します。

国土交通省では、あの災害の後に、緊急に沿川の市長、町長を訪ねて、緊急時の連絡体制などの確認をおこない、洪水時に危険な箇所について、改めて消防などの水防関係者や地域の自治会の代表の方々と現地の確認をおこないました。

今後も土砂災害対策施設や堤防の強化等のハード対策を促進してまいります。自然の力に対して、施設での対策には限界があります。流域住民の皆さんや自治体と一体となった避難訓練や水防訓練等のソフト対策の取り組みも重要だと考えています。

今年も渡良瀬川の安全・安心のために、職員一同努力してまいりますので、皆様のご理解、ご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

「平成27年度 工事安全施工研究発表会」を開催しました ～最優秀賞を「潮田建設(株) 梁島さん」が受賞～



【発表された皆さんと審査員】

結果

最優秀賞	潮田建設(株)	梁島 千裕
優秀賞	新菱工業(株)	池崎 治
優秀賞	岩澤建設(株)	黒田 裕之
奨励賞	(株)浜屋組	高橋 澄夫
奨励賞	(株)片柳建設	島田 和幸



【最優秀賞の梁島さん】

建設労働災害が多発する中で、建設工事等の工事現場における安全対策においてもこれまで以上にその取り組みが重要な課題となっています。平成8年12月に発生した長野・新潟県境の姫川流域左支川の蒲原沢土石流災害では多くの方の尊い命が失われました。この災害の教訓を風化させず、安全施工技術のさらなる向上を目指して渡良瀬川工事等安全協議会では、平成11年度より「工事安全施工研究発表会」を実施しており、平成27年度は12月11日に開催しました。

当日は桐生労働基準監督署長をはじめとして関係者約70名が出席し、対象工事22工事のうち、14工事から応募があり、各支部ごとに事前に予選を行い推薦していただいた5議題により発表会を行いました。審査においては、桐生労働基準監督署長、栃木県安足土木事務所長、群馬県桐生土木事務所長の外部審査員3名と渡良瀬川河川事務所長、副所長2名による6名により、施工条件や現場における配慮、積極的な取り組みや創意工夫、安全対策の効果や有益性等について審査を行いました（結果は、前述のとおり）。

また、平成28年2月5日に関東地方整備局で行われる「砂防関係工事安全施工研究発表会」には事務所の砂防工事代表として岩澤建設(株)の黒田さんの発表を推薦することとなりました。



【事務所長挨拶】



【会場の様子】

(担当：工務課)

平成27年度第1回大規模土砂災害対策連絡会を開催しました

平成27年11月30日に、群馬県、栃木県、みどり市、桐生市、日光市などが参加し、平成27年度第1回「渡良瀬川における大規模土砂災害対策連絡会」を開催しました。



講演会の様子

まとめでは、仙北市では災害発生後、防災の基本理念である「自助・共助・公助」のもと、「自助・共助」を推進するとともに、「公助」の役割を積極的に果たすため、先ずソフト対策を先行して実施し、ハード対策については、秋田県の施策と連携して、計画的に実施することを災害対応の方針としており、防災・減災は、みんなの力で一致団結して対応することが、最も大切であるという言葉で締めくくり講演会は終了しました。

第2部では、近年の土砂災害の紹介や今年度の合同防災訓練についての説明を行うなど、情報共有を行いました。

(担当：砂防調査課)

土砂災害による教訓と対策	
教 訓	対 策
<ul style="list-style-type: none"> 急激に変化する状況に対して現行組織の運用では適切に対応ができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 田沢湖庁舎に新たな組織を編成する。緊急災害対策チームの設立。
<ul style="list-style-type: none"> 情報の共有と情報の収集・分析に基づく組織としての対応が十分できなかったこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たに編成する組織の中に情報部と作戦部をつくる。 情報を共有するため庁内のPCシステムを活用。
<ul style="list-style-type: none"> 持ち込まれる情報の精度がまちまちで、内容の確認に多くの時間を費やし、対応に遅れが生じたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の精度を上げるため、発信元・受け手の情報をやりとりする要素を画一化させて情報交換の確実な速達を図る。
<ul style="list-style-type: none"> 市民に対する危険箇所の周知等が十分でなかったため、危険箇所に対する市民の意識が希薄となり、対応に遅れが生じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 危険箇所周知の地区説明会を開催し、併せて自主防災組織の立ち上げを推進する。

平成27年度の体験植樹が無事終了しました

渡良瀬川河川事務所足尾砂防出張所では、国土交通省が砂防事業により整備を行った足尾砂防堰堤上流部の松木地先において、地元NPO法人「足尾に緑を育てる会」と連携して主に小中学校を対象に、体験植樹を継続して実施しています。

平成27年度の体験植樹についても、5月11日から実施し、地元日光市内の小学校をはじめ、首都圏の多くの小中学校や一般の団体のご参加をいただき、11月24日をもって無事終了しました。今年度の参加団体数は35団体、体験者数は1,680名、植樹本数は114本となりました。

現地で実際に「見て、聞いて、体験」することで、ご参加された皆様に砂防事業の役割や植樹の意義をご理解いただければと思います。

多くの皆様のご参加とご尽力により、着実に足尾の山々に緑が増えていきます。この場を借りて、感謝申し上げます。

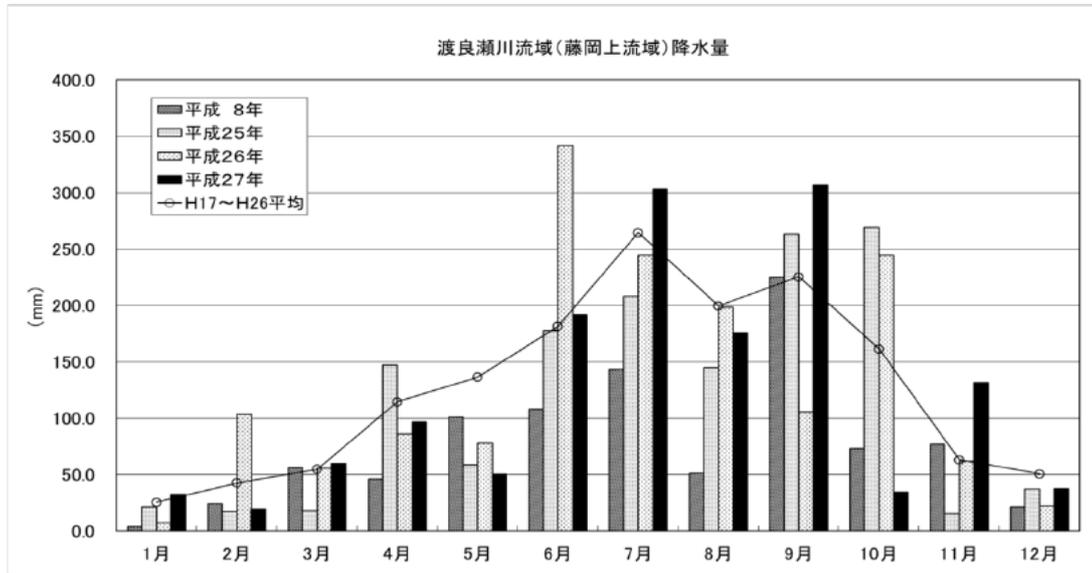


参加方法や疑問等、体験植樹に関するお問い合わせは、渡良瀬川河川事務所足尾砂防出張所 (Tel: 0288-93-2151) まで、お気軽にご連絡ください。

(担当：足尾砂防出張所)

渡良瀬川流域の降水量及び草木ダムの貯水状況

12月の渡良瀬川流域（渡良瀬遊水地から上流域）の降水量は38.0^{mm}で、平成17年から平成26年までの平均降水量と比べ約74.8%となっており、1月4日（9時00分）現在の草木ダムの貯水位はEL（海拔標高）437.71m、貯水量は26,893千^m³で貯水率53.3%となっています。



草木ダム展望台より撮影（12月22日時点）

紙面についてのご意見やご感想をお待ちしています。パソコンからは渡良瀬川河川事務所ホームページの「お問い合わせ」から投稿していただけます。電話・FAXは下記番号へ、郵便の場合は下記住所「渡良瀬川河川事務所地域広報官」あてでお願いします。



国土交通省関東地方整備局

渡良瀬川河川事務所

〒326-0822

栃木県足利市田中町661-3

<http://www.ktr.mlit.go.jp/watarase/>

TEL: 0284(73)5551

FAX: 0284(73)8504

川の防災情報

リアルタイムの雨量と
水位を知りたい時は

<http://i.river.go.jp>



【案内図及び連絡先】



総務課	0284(73)5551
経理課	0284(73)5552
用地課	0284(73)5553
工事課	0284(73)5554
調査課	0284(73)5558
砂防課	0284(73)5559
管理課	0284(73)5557
佐野河川出張所	0283(21)6810
桐生出張所	0277(44)3724
足利出張所	0284(71)2202
大間々砂防出張所	0277(72)1664
足尾砂防出張所	0288(93)2151